

所沢中央病院だより

2023.7 vol.2

私たちは

生命を慈しむ心を大切にし

地域の皆様から信頼される

医療を提供します



和風会の展望

医療法人社団和風会 理事長 石田 信彦

和風会は、多摩地区の青梅・所沢エリアを中心に、地域のみなさま方の健康で快適な暮らしを護るため、活動している医療法人です。特に、これからの超高齢化社会を見据えて、日常の健康増進、疾病予防、病気の治療・介護まで、医療・保険・在宅ケアの専門施設をバランスよく整備しております。

所沢中央病院はその中で唯一の急性期病院であり、地域のみなさまに安心していただける医療を提供すべく日々邁進しております。

和風会では毎年テーマを掲げそれぞれの施設が目標に向かっていきます。易によりますと 2023 年は「雷風恒」で、その意味は“今までのリズムを崩さず変化しないことが吉である。調和を心掛けることが懸命と思われる。そして、大きな変化等を求めることなく肅々と今までの調和を続けることが必要な時期”というようなことです。そこで今年は「不変調和」をテーマに掲げました。今まで培ってきた連携を更に強化・発展をさせ、内外の調和を図っていきます。

急性期病院が生き残っていくためには、地域連携が一番重要です。「急性期治療を施して地域に帰していく」が急性期病院の使命と考えております。是非、今以上に地域の方々との連携を強めていきたいと思えます。

また、和風会は「ピンピンコロリ」の尊厳ある人生をサポートするため、創業当初から運動(リハビリテーション)に力を入れております。良いリハビリの療法士育成が重要だと考え、リハビリの養成校「多摩リハビリテーション学院」も設立いたしました。今では国にも認められて学校法人化された専門学校となり、PT・OT・ST の 3 学科に加え、更に介護福祉学科を令和 4 年 4 月に新設いたしました。

団塊の世代が全員 75 歳以上になる 2025 年には、介護人材が 32 万人不足と言われております。それに向けた打ち手として、前述の多摩リハビリテーション学院専門学校では介護人材を養成すると共に、和風会グループでは「外国からの介護の特殊技能人材の紹介事業」も立ち上げました。

タイ、カンボジアの介護専門学校・看護大学と直接提携をし、和風会の各施設でも多くの人材を受け入れています。彼らは非常に勤勉であり、これからの超高齢化社会を担う貴重な人材になると確信しています。関心をお持ちの方は、「WAFU メディカルサービス」に連絡をいただければと思います。





診療科紹介：外科

外科部長 大草 康

当院外科は 5 名の常勤医師に加え、数名の非常勤医師の支援を得て外来、入院、内視鏡検査、手術等の診療を実施しています。

日本外科学会及び日本消化器外科学会から防衛医大外科の関連施設として認定されており、日本消化器内視鏡学会の指導施設としても認定されています。また、防衛医大および杏林大の外科領域専門研修プログラムの関連施設として、2016 年 8 月から防衛医大外科、2020 年 12 月から杏林大外科の専門研修を実施しています。

急性腹症に対する治療

救急病院として、腹痛等で手術の要否、そのタイミング、更に高次救急病院へ搬送の是非の判断を必要とする疾患、所謂急性腹症に対し常に臨戦態勢にあるということが一番の特徴であります。

救急車受け入れ台数や近隣の病院、クリニックからの紹介件数もかなり多くなり、手術症例数に直結していると言えます。

2022 年度の当院外科手術症例の約 22%はこのような胆嚢炎や虫垂炎、腸閉塞や消化管穿孔といった腹膜炎等の急性腹症に対する手術となっています。

低侵襲手術への取り組み

腹腔鏡手術を中心とした低侵襲手術にも積極的に取り組んでいます。特に 2015 年度に導入した鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術(TAPP)は増加しており 2017 年度に年間 100 例に達し、2022 年度には 153 例に実施しております。

2020 年度からは腹腔内到達法(TAPP)に加え腹膜外到達法(TEP)も取り入れ幅広いニーズに対応しております。急性疾患である胆嚢炎や虫垂炎に対しても殆どの症例で腹腔鏡下手術を実施しております。更に胃・大腸癌等の悪性疾患に対しても病期を選んで腹腔鏡下切除術を選択しており、2022 年度は手術症例の約 60%が腹腔鏡下手術となっています。

悪性腫瘍に対する治療

悪性腫瘍に対する治療に関しては、がん診療指定病院である防衛医大病院と連携を取りつつ、胃・大腸等の消化器癌に対する手術を実施すると共に、近年多様化してきた化学療法や疼痛管理を中心とした緩和医療にも対応しています。

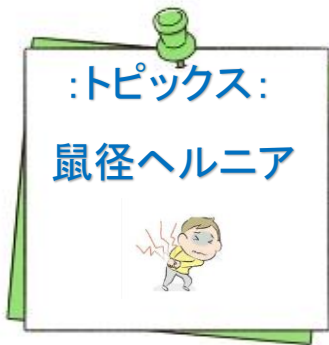
手術件数は 2022 年度は胃癌 11 例、大腸癌 58 例でした。化学療法を積極的に行う必要のある症例に対しては中心静脈がん化学療法用埋込型カテーテル(CV ポート)を挿入し、外来あるいは入院にて化学療法を実施しています。近隣のクリニックからの CV ポート挿入依頼にも積極的に対応しています。

緩和医療の一環として、腹水貯留に対する腹水濾過濃縮再静注法(CART)や麻痺性イレウス等に対する高気圧酸素治療(HBO)、経口摂取困難症例に対する胃瘻造設(PEG)も積極的に実施しています。

また、通院困難になった患者さんに対しては患者サポートセンターを通じて療養病院や緩和病棟への転院や在宅医療への移行等、癌治療の始まりから終末期医療まで切れ目のない医療の提供に関与することで厚い信頼を得ています。

このように我々は地域に根ざした病院で近隣の住民のみなさまに安心して医療を受けていただけるよう万全の体制で取り組んでいます。みなさまのご来院を心よりお待ちしております。

今回は当科の 2022 年度手術症例の 3 分の 1 以上を占める鼠径ヘルニアについてお話しします。



「ヘルニア」とは身体の中の一部が、あるべき場所から出てきてしまった状態のことを言います。整形外科でよく聞く椎間板ヘルニアは背骨の間にある椎間板の中の髄核というものが飛び出した状態ですが、鼠径ヘルニアは本来ならお腹の中にあるはずの腹膜や腸の一部が足の付け根近くにある鼠径部の脆弱になった筋膜の間から皮膚の下に出てくる病気、いわゆる「脱腸」を指します。

鼠径部の中でも脆弱になりやすい部分がいくつかありそれにより外鼠径ヘルニア、内鼠径ヘルニア、大腿ヘルニアという風に細分化されています。

初期では立ち上がった時、腹圧をかけた時に膨隆する程度ですが、だんだん大きくなったり、痛みが出てきたりする場合があります。また、腸が脱出して戻らなくなる「嵌頓」という状態になると、緊急手術が必要になったり生命の危険に脅かされることもあります。

一般的に患者さんの殆どは 50 歳代以上の中高年男性ですが、大腿ヘルニアは高齢女性に多く、嵌頓のリスクが高いので注意が必要です。

鼠径ヘルニアは自然に治ることはなく外科的な治療を必要とします。手術の基本は皮下に飛び出て袋状になった腹膜の切離とメッシュによる補強です。アプローチの仕方や使うメッシュの種類により色々な施設で色々な術式が行われています。

鼠径部切開法は従来の方で、下腹部を数センチ切開して脆弱化した部分をシート型やプラグ型のメッシュで補強します。腹腔鏡下手術は臍部とそれ以外の場所 2ヶ所に 5 ミリ程度の穴を開け、腹腔内からヘルニアの部分を確認しやはり脆弱化した部分をシート型のメッシュで補強します。

メッシュを展開する場所は同じですが、その場所に到達する方法の違いで腹膜内到達法 (TAPP)、腹膜外到達法 (TEP) に分けられます。当科では整容性、確実性を重視し、腹腔鏡下修復術 (TAPP、TEP) を第一選択としていますが、実際には患者さん個々の容態 (年齢的、全身状態、病歴) を考慮し、最適と考えられる術式を採用しています。

鼠径ヘルニアは癌のような悪性疾患と違い、発症したらすぐに治療しなければならないわけではなく、多少の猶予はありますが、嵌頓すると生命の危険もあり得ることから、その前に治療しておくことが望まれます。

気づいたら早めに当院に受診していただくことをお勧めします。





睡眠時無呼吸症候群 (SAS) について

内科部長 佐藤 一樹

みなさんは睡眠時無呼吸症候群(以下 SAS)という病気をご存じでしょうか？最近メディアでも取り上げられることがあり、世間でもだいぶ知られてきた病気かと思います。

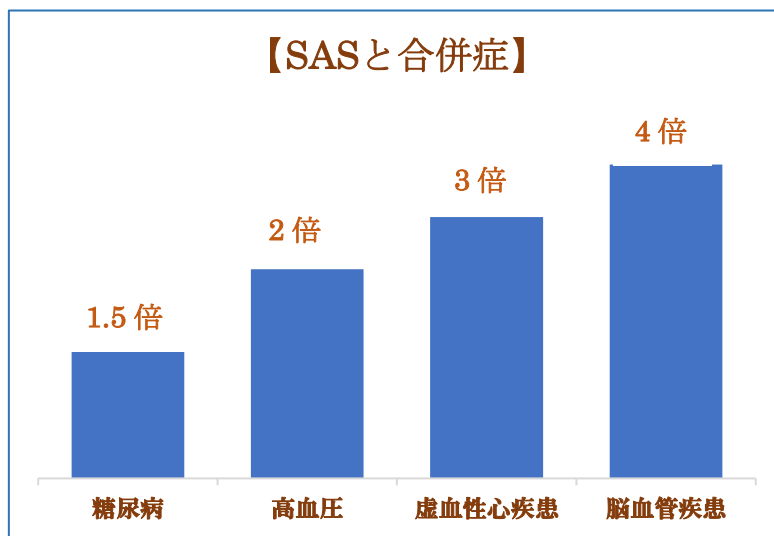
SAS とは、睡眠中に何度も呼吸が止まった状態(無呼吸)や止まりかける状態(低呼吸)が繰り返される病気です。

これを一晩中繰り返すことにより、深い睡眠がまったくとれなくなり、日中に強い眠気が出現します。酸素濃度が下がるため、これを補うために心臓の働きが強まることで高血圧となり、また、動脈硬化も進み、心筋梗塞や脳梗塞を起こしやすくなります。

更に睡眠不足によるストレスにより、血糖値やコレステロール値が高くなり、様々な生活習慣病やメタボリック・シンドロームが引き起こされると言われています。

1時間あたり10秒以上の呼吸停止が5回以上出現するとSASと診断されますが、20回以上出現するような中等症・重症のSASは放置すると、上記の病気が悪化したり、健常者と比べて死亡率が2.6倍とされています。また眠気による交通事故を起こす確率も約2.5倍も高いという報告もあるため、早急な治療が必要です。

睡眠時無呼吸症候群ではない人と比較するとそのリスクは…



上記のようなデータもありますが、適切な治療を受けることで健常者とほぼ同等まで減らせることが報告されています。そのため早期発見と適切な治療を受けることが重要だと言われています。

当院では検査から治療までを行っております。

2022年1月よりSAS外来開設しており、検査から治療までを行っています。

受診のきっかけは『家族よりいびきや無呼吸の指摘があった』という方が多く、受診から診断に繋がる方は8割程度、そこから治療に繋がる方は3割程度います。

検査から治療までの流れ

スクリーニング

- ・ 外来にて問診・スクリーニングを行います。

簡易検査

- ・ ご自宅で簡易検査を行います。この検査では睡眠中の呼吸の状態、血液中の酸素飽和度などを同時に測定し、無呼吸低呼吸の有無を知ることができます。検査結果によって精密検査が必要となります。



確定診断

- ・ 1泊2日の入院にて精密検査を行います。この検査では睡眠中の呼吸や脳波、血液中の酸素飽和度、心電図などを同時に測定し、睡眠の深さや質と呼吸の状態を調べます。



治療

- ・ 精密検査で確定診断がついたら治療開始です。最も多く行われている治療法はCPAP療法です。鼻に装着したマスクに空気を送り込むことによって、一定の圧力を気道にかける治療方法です。



CPAP 療法は対症療法であり、SAS の根本的な治療法ではありません。CPAP をやめてしまうと、SAS の症状が起こってしまいますので、継続することが重要な治療法です。

併せて生活習慣の見直しも SAS の改善には重要です。

当院では治療後のフォローまで行っています。

重症化してからでは遅いので、自身で気付いたとき、ご家族より指摘があったときは早めに受診することをお勧めします。

是非当院 SAS 外来までお越しください。

SAS 外来: 毎週土曜日 12:00~12:30 予約制



所沢中央病院健診クリニック



院長 立花 英夫

健診クリニックは、旧所沢中央病院の一診療科としてスタートしました。当初は受診者も多くなく少人数のスタッフで運営されていました。

年々受診者様が増加していることもあり、2011年9月に健診専門の所沢中央病院健診クリニックとして独立しました。院内だけでなく企業や学校などの巡回健診にも力を入れ、お陰様で2022年には年間18,000名ほどまで受診者が増えました。

当施設は所沢駅から徒歩5分という便利な立地にあり、また所沢中央病院でCTやMRIなどの検査が可能です。受診者様にアットホームな雰囲気の中でスムーズに検査が受けられるよう、スタッフ一同心掛けております。

各種専門医を中心に経験豊富な医師が担当し、質の高い最新の医療情報を提供すること、がん検診では、早期発見・早期治療に向けて、最大限の力を注いでいます。

ご希望の方には健診結果説明と疾病予防・健康維持増進のための生活指導を行っております。精密検査が必要になった場合には、速やかに所沢中央病院またはご希望される医療機関へご紹介致します。豊富なオプション検査をご用意しております。

【胃内視鏡検査】

苦しくない、丁寧な検査を心掛け、
受診者様の今の状態に対する診断を行います

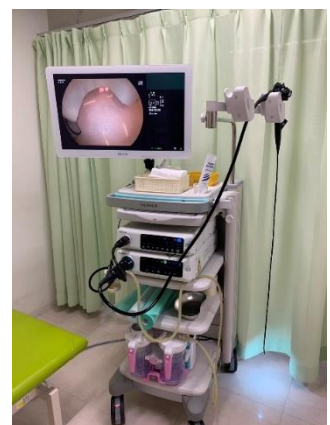
過去に内視鏡検査を受けられ、苦しい思いをされた受診者様の中には、もう二度とやりたくないという気持ちをお持ちの方もたくさんいらっしゃるかと思います。

しかし、内視鏡の性能は以前と比べて格段に良くなっていることに加え、内視鏡の太さは約6mmと細くなり、検査中の苦痛も軽減しています。

更に20,000件以上の検査経験のある医師などもおり、施行医は皆経験豊富です。

苦痛が心配、検査が不安な場合は鎮静剤も使用することが可能です。
気負わず、嫌わず、気軽に受診してください。

ご自身の今の胃の状態を知っておくことは、将来的に様々な病気のリスクを減らすことにもつながります。



【超音波検査】

当施設では、腹部、乳腺の超音波以外にも頸動脈、甲状腺の超音波検査も行っています。
頸動脈超音波検査は、動脈硬化による血管壁の肥厚やプラークと呼ばれるコレステロールの塊の付着による血管狭窄の有無を検査します。

日本人の死因の上位を占める生活習慣病の検査としてとても有用です。

甲状腺超音波検査は、大きさや腫瘍の有無、性状を確認し、異常がないかどうかを調べます。甲状腺は身体の代謝を活発にするホルモンを産生している内分泌器官であり、健康に欠かせない重要な臓器です。



甲状腺の疾患の中でもバセドウ病に関しては成人女性で1000人に2~6人、橋本病に至っては成人女性の10人に1人が罹患していると言われています。

甲状腺超音波検査と甲状腺ホルモンの血液検査をセットでお受けいただくこと
をお勧めします。

定期的な健診で早期発見にお役立てください。

【巡回健診】

みなさまの地域へ、
巡回健診部が伺います。

病院スタッフが健診バスでみなさまの地域・職場へ伺い、
地域のみなさま、企業にお勤めのみなさまの健康を守れるよう、
生活習慣病予防健診、法定項目健診、特殊健康診断など
幅広いニーズにお応えいたします。



～短時間で効率的な健康診断をお届けしていきます～

＝年に1回健康チェックしていますか？＝

定期健診・生活習慣予防健診よりも
内容が充実した「**人間ドック**」を受診しませんか？

※午後も定期健診、超音波検査、マンモグラフィーなどの
検査予約も可能です。



事務局より：事務長挨拶

事務長 半沢 寛

令和3年6月に事務長職を拝命いたしました半沢寛と申します。私は平成18年に所沢中央病院医事課に入職し、今年で17年目を迎えます。この度、埼玉西部医療圏で急性期医療の中核を担う所沢中央病院の事務長職という重責を担うこととなり、責任とやりがいを感じております。

当院は「地域のみなさまに信頼され、選ばれる急性期病院」を目標に掲げております。

安心・信頼の医療を提供し、地域のみなさまから選んでいただけるよう職員一同取り組みます。また、職員が働きやすい環境を整備して、私たちの仲間がひとりでも増えてくれるような病院づくりを目指します。

今年度の法人テーマである「不変調和」のもと、法人内唯一の急性期病院として急性期機能を充実させ、地域・院内・法人の中で連携・調和を促進していきます。

北院長を中心に地域のみなさまの期待に応え、信頼され選ばれる病院となるよう職員一同最善を尽くしてまいります。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

編集後記

長い長いコロナ感染による面会制限。7月4日から当院でも緩和されました。入院患者さんにとって、ご家族の顔が見えるということは何よりの安心感に繋がる事でしょう。とは言っても、コロナウイルスがなくなったわけではありません。基本的な感染予防策を励行しながらの面会となりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。猛暑です。栄養補給、水分補給しながら夏を乗り切りましょう

所沢中央病院だより vol.2

発行 2023.7

発行者 所沢中央病院

〒359-0037 所沢市くすのき台 3-18-1

Tel:04-2994-1265 Fax:04-2991-4655

